

林いさお通信

討議資料 No. 8 審議会報告 平成19年8月 林いさお後援会

暑中お見舞い申し上げます

8月に入りやっと暑い夏がもどってきました。

今年は梅雨明けが例年にくらべ一週間ほど遅れ、冷夏かと心配していました。

参議院選挙も自民党が歴史的な大敗を喫し、民主党が参議院で第一党になりました。衆議院と参議院でねじれ現象がおこり、法案の成立が難しくなりますが、緊張感のある二大政党制への一步とみるべきでしょうか。

今回の選挙結果に対して、マスコミも様々な論評を加えています。そんな中、8月3日、国会見学と片山さつき衆議院議員の講演会の企画がありました。今後の政局をにらみ、また、震源地の永田町での参院選の評価を聞くべく参加してみました。

特に片山議員は、現在、自民党の広報局長として、今回の参議院選では広報戦略の中心的役割を担っていました。敗因は、言うまでもなく年金、政治と金、閣僚の失言の三点セット。ただ、広報戦略の立場からすると、自民党の旧態依然の体質により、思うような候補者選定ができなかったこと(民主党の若い女性候補と年輩の自民候補という構図)。政策に関しては、決して負けないが、十分な政策論争に発展できなかったこと。「姫の虎退治」というキャッチフレーズに象徴されるメディア戦略等で、昨年の衆議院選挙のお株を完全にとられ、どうにもならなかったという。

「今、衆議院解散総選挙をしたら、全小選挙区で自民党は負ける。民主党は案山子でも勝てる。風がふき、振り子が大きくふれて民主党が大勝した選挙であった。必ず振り子は戻る。しかし、そこはもう自民党ではないかもしれない・・・。」

この一言に今の自民党の底知れない危機感のあらわれを感じました。

参院選の投票率は、三芳町では59.12%、四月の町議会議員選挙の投票率は52.55%。どちらも決して高いとは言えないが、参院選は年金問題など身近な問題が投票率を上げたと考えられる。

でも最も身近な選挙の投票率が低い原因は何なのだろうか。町に魅力がないのか、期待をしていないのか・・・。

一政治家としての責任を感じる。



片山さつき衆議院議員